

マルチメディアDAISY図書の活用と普及・啓発活動

東京都墨田区立ひきふね図書館
小海真太郎

はじめに

墨田区立ひきふね図書館は、老朽化した「あずま図書館」と「寺島図書館」を統合した中心館として、2013年4月に京成曳舟駅の駅前に開館しました。本年度6年目を迎えますが、設備面等も含め、東京都内では比較的新しい図書館です。

墨田区立図書館で実施している障害者サービス事業は歴史が古く、1970年代前半からサービスを開始し、多くの障害者の方などに利用していただいています。

ひきふね図書館の障害者サービス担当は5名体制で業務を行っており、障害者資料の貸出をはじめ、障害者施設への出張貸出、ボランティアによる高齢者施設での読み語り、デージー図書などの資料作成、資料の宅配など、幅広いサービスを展開しています。

また、ひきふね図書館には、障害者貸出用と一般貸出用のマルチメディアDAISY図書を多数所蔵しています。

今回は、マルチメディアDAISY図書の活用事例や、イベントなどでの普及・啓発活動について、ご紹介いたします。

新たな事業所でのサービス開始

(1)「すみだ晴山苑 キララ」への訪問サービス

昨年度までは、特別支援学校の在校生を対象にした放課後等デイサービス施設である「キッズサポートリマ」へ訪問して、マルチメディアDAISY図書の紹介などのサービスを行っていましたが、今年度からは、「きッズサポートリマ」と同じ障害者通所支援事業所である「すみだ晴山苑 キララ」への訪問サービスを始めました。

当施設は、本年4月に開所したばかりの施設であることから、さっそく、施設へ連絡して、図書館での障害者サービス事業について説明させてもらう機会を設けてもらいました。その際、施設側も大変興味をもっていただいたこともあり、とんとん拍子で話は進み、民間の障害者施設では2か所目となる訪問サービスを実施することとなりました。



(2) 活動の内容

「すみだ晴山苑 キララ」は、「キッズサポートリマ」と同じく、横たわっていたり、介助者に抱きかかえられたり、自力での座位保持が困難な方が多く通所しています。

11月にはじめて訪問した際には、大型絵本『きょうりゅうのおおきさ』『しっぽのはたらき』の読み聞かせを行うとともに、利用者子どもたちに質問形式での問いかけを行いました。問いかけを行うことで、子どもたちは質問に対して笑顔を見せながら答えてくれる光景を多く見ることができました。

続いて、紙芝居『桃太郎』の読み聞かせを行いました。子どもたちが真剣に話を聞く姿が印象に残りました。

つぎに、マルチメディアDAISY図書を、iPadを使って直接子どもたちに操作してもらいました。高学年の男の子は座りながらタイトルを選び、その中で文字が多い本を選んで、目でしっかりと文字を追いつながりながら読んでいました。彼に「読みやすいですか」と問いかけたところ、「読んでいる箇所が見てわかるので、非常にわかりやすいです」と、とても喜んでくれました。

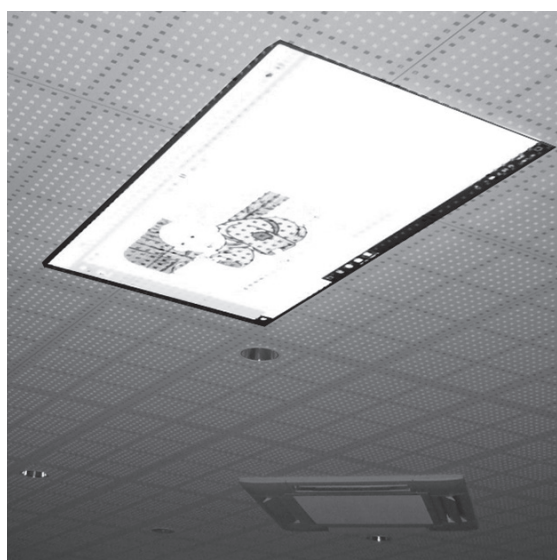
皆さんが本当に熱心にiPadを操作しながら、マルチメディアDAISY図書の体験をしてくれたため、時間が足りなくなり、途中で切り上げなくてはなりませんでした。

子どもたちも心惜しそうにしていたし、施設の方も、非常に喜んでくれました。今後とも定期的に訪問することで、子どもたちに読書の楽しさを伝えていけたらと思っています。



(3) 今後の取り組み

マルチメディアDAISY図書の活用については、このほかにも、部屋を暗くして、全員が床に寝そべり、プロジェクターで天井に映すという手法も取り入れました。利用者の方は自力での在位保持が困難な方が多いため、寝そべることでリラックスして見るができるなど、マルチメディアDAISY図書は、利用の仕方次第で幅広い活用ができると感じています。



今後も引き続き、区内の児童通所支援事業所連絡会などでマルチメディアDAISY図書をPRしていくとともに、図書館側から積極的に施設を訪問していくなど、さらなるマルチメディアDAISY図書の活用や普及・啓発に取り組んでいきたいと思っています。

障害者イベントなどでの普及・啓発活動について

(1)「NPO法人 CANVAS」との連携

ひきふね図書館では年に3回程度、障害のある子どもとその家族を対象に、「NPO法人 CANVAS」と連携しながら「プログラミングワークショップ」という事業を実施しています。参加した子どもたちが、プログラミングアプリを使用して、自分たちで動くアニメーションをつくるなど、デジタルテクノロジーによる表現の楽しさを体験してもらう企画です。



プログラミング体験の前には、大きなスクリーンを使用して、図書館職員に

よるマルチメディアDAISY図書の実演も行っています。実演を終えると、子どもたちよりも、いっしょに参加している家族の方が「すごい」「知らなかった」など、驚きの声が多く聞かれます。



会場では、マルチメディアDAISY図書の展示や貸出も行っていますが、プログラミング体験の終了後は、iPadを使用して、実際にマルチメディアDAISY図書の体験をしてもらいました。実際に体験することで、さらに興味を示す方が多く、利用登録者や貸出件数も少しずつですが増えてきているのを実感しています。

(2) 区の障害者福祉課等との連携

墨田区では、毎年12月の障害者週間に合わせて、区の障害者福祉課と墨田区障害者団体連合会の共催による「す

みだスマイル・フェスティバル」というイベントを開催しており、当イベントには、ひきふね図書館も毎年参加しています。

会場では、点字図書や拡大写本などの障害者資料とともに、マルチメディアDAISY図書も展示しています。マルチメディアDAISY図書は、ブースの一番目立つ場所に、パソコンとiPadと原本を並べて展示して、来場者にわかりやすくマルチメディアDAISY図書を紹介できるように工夫しています。



来場者に実演してみせると、「これも図書なのですか」「今度、子どもを連れて図書館で詳しく見てみたい」などの声や、障害のあるお子さんが自らiPadを操作している光景も見られました。

また、現在は多くの学校で、タブレットを使用した授業などが行われているためか、子どもたちは、パソコンよりもiPadの操作のほうに慣れている様子でした。

このような大きなイベントに参加し

て実演を交えながらPRしていくことで、障害者の方をはじめ、そうでない方にもマルチメディアDAISY図書のことを知ってもらい、さまざまな事情で読書から離れている方にも、読書の楽しさをもっと知ってほしいと思っています。

さいごに

マルチメディアDAISY図書は、本を読むことが困難な方にも、一人ひとりのニーズに合わせた読み方を選べるため、諸外国では積極的に導入されているツールです。

ひきふね図書館では、マルチメディアDAISY図書の普及・啓発活動を推進していますが、マルチメディアDAISY図書に興味をもってもらったとしても、それを継続的に利用している方が少ないのが現状です。

マルチメディアDAISY図書を「知ってもらう」ための普及・啓発活動については、さらに充実させていく必要がありますが、今後は「多くの方に継続して利用してもらう」ための取り組みが課題であると考えています。

少しずつですが利用者も増えてきているので、引き続きマルチメディアDAISY図書を積極的にPRしていくとともに、一人でも多くの方に活用していただけるような取り組みを行っていききたいと思います。